

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-11C	15-103	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳) Alcohol consumption, body mass index and breast cancer risk by hormone receptor status: Women' Lifestyle and Health Study. アルコール消費量、BMI とホルモン受容体の状況による乳がんの危険性：Women' Lifestyle and Health Study		
執筆者 Shin A, Sandin S, Lof M, Margolis KL, Kim K, Couto E, Adami HO, Weiderpas E.		
掲載誌 BMC Cancer. 2015 Nov 9;15:881. doi: 10.1186/s12885-015-1896-3.		
キーワード		PMID
アルコール飲酒、乳がん、ホルモン受容体		26552431
要 旨 目的： 乳がん発症に対する飲酒の影響を評価することと過体重や肥満が乳がんとの飲酒の関連に更なる影響を及ぼすかどうかを調べることを目的とした。		
方法： 1991年から1992年の間に Swedish Women's Lifestyle and Health study に参加した45,233人の女性を対照とした。参加者は2009年12月まで乳がんの発生と死亡を追跡調査された。ポワソン回帰分析を用いた。アウトカムは、すべての乳がん、エストロゲン受容体の陽性・陰性、プロゲステロン受容体の陽性・陰性の腫瘍とした。		
結果： 追跡期間中に1385件の乳がんが確認された。交絡を調整後のアルコール摂取量と乳がんの危険性の間の関連は相対リスクが1日の飲酒量が5g増加するごとに1.01倍（95%信頼区間：0.98-1.04）で統計学的な有意差は見られなかった。BMIが25以下の女性では、アルコール消費量が高いと乳がんの危険性は1日の飲酒量が5g増加するごとに相対危険度が1.03倍（95%信頼区間：1.0-1.05）有意に上昇することが示された。		
結論： BMIが25kg/m ² 以下の女性において、アルコール飲酒量の増加とともに乳がんリスクの増加が見られた。		